

報道関係各位

**NHK international, inc.**  
一般財団法人 NHK インターナショナル

## 文化庁海外メディア芸術祭等参加事業 企画展 「The Medium as Somatic Impulse ー身体的衝動としてのメディウムー」 開催のご案内

文化庁が主催、一般財団法人NHKインターナショナルが企画・運営する「海外メディア芸術祭等参加事業」は、メディアアート、映像、ウェブ、ゲーム、アニメーション、マンガ作品等の優れたメディア芸術作品を紹介するため、海外のフェスティバルや施設において、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に展示・上映・プレゼンテーション等を実施しています。

このたび、インド・ムンバイ市で開催されるフェスティバル「EYEMYTH(アイミス)Media Arts Festival」に参加し、2016年2月19日(金)から2月21日(日)まで、企画展「The Medium as Somatic Impulse ー身体的衝動としてのメディウムー」を開催します。インターネット配信番組 DOMMUNE 主宰や現在美術家などマルチに活躍する宇川直宏氏がキュレーションを行い、テクノロジーやサウンドを扱ったパフォーマンスや作品などを通じて人間の身体が持ち合わせる潜在的な力について再考します。

### 文化庁海外メディア芸術祭等参加事業 企画展 「The Medium as Somatic Impulse ー身体的衝動としてのメディウムー」

会期: 2016年2月19日(金)~2月21日(日)

会場: (インド・ムンバイ市)

Sitara Studio (National Engineering Compound, Garage Lane, Kakasaheb Gadgil Marg, Near Congress Bhavan Opposite Indiabulls Finance Centre, Lower Parel, Mumbai)

Edward Cinema (514, Near Metro Adlabs, Kalba Devi Road, Tak Wadi, Mumbai)

Todi Mill Social (242, Mathuradas Mill Compound, Sitaram Jadhav Marg, Lower Parel, Mumbai)

Dolby Laboratories (S14, 5th Floor, 167, Guru Hargovindji Marg, Chakala, Andheri, Mumbai)

Piramal Museum of Art (Peninsula Corporate Park, Ganpatrao Kadam Marg, Lower Parel West, Mumbai)

入場料: 無料 (\*ただし2/20(土)Edward Cinemaはフェスティバルバスが必要 RS200~)

<http://jmaf-promote.jp/>

主催: 文化庁

共催: EYEMYTH Media Arts Festival

協力: 一般社団法人TodaysArt JAPAN / 高松メディアアート祭 / 国際交流基金ニューデリー日本文化センター

企画ディレクター: 宇川 直宏 (現在美術家 / 京都造形芸術大学教授 / DOMMUNE主宰)

事業アドバイザー: 毛利 嘉孝 (東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科准教授 / 社会学)

吉岡 洋 (京都大学大学院文学研究科教授 / 美学・芸術学)

運営事務局: 一般財団法人NHKインターナショナル

#### 本件に関する問い合わせ先

文化庁海外メディア芸術祭等参加事業事務局(一般財団法人NHKインターナショナル内)

担当: 小山(おやま)・本間(ほんま)・湧井(わくい)

E-mail: [jmaf-info@nhkint.or.jp](mailto:jmaf-info@nhkint.or.jp) TEL: 03-6415-8500 FAX: 03-3770-1829

文化庁海外メディア芸術祭等参加事業 企画展

## 「The Medium as Somatic Impulse —身体的衝動としてのメディウム—」

インドは人口 12 億人を超え急速な発展を遂げています。その最大の都市であり商業都市のムンバイは、多くの現地企業や海外企業が進出し、映画産業ハリウッドや多くのコンテンツ産業が拠点を構えている流行発信基地でもあります。ムンバイで開催されるメディアアート、パフォーマンス・アートに特化しリニューアルした「EYEMYTH Media Arts Festival」に参加し、宇川直宏氏が掲げた身体とテクノロジーをテーマに、本事業のインドでの初の企画展となる「The Medium as Somatic Impulse —身体的衝動としてのメディウム—」を開催します。

### 展覧会コンセプト

企画ディレクター 宇川 直宏

『WIRED』の元編集長クリス・アンダーソンが著書『MAKERS』で指摘しているように、現代は"クリエイター主義"を超え、CAD や 3D プリンターを駆使した今世紀的"ソーシャルもの作り主義"＝メイカーズムーブメントが巻き起こり、すでに 21 世紀の産業革命は始まっている。一方、2010年代の抽象絵画のトレンドとして、「ザ・メディウム・オブ・コンティンジェンシー」という概念がある。これは、作家の創作意図を超え、因果律すらも超越した偶然性を作品に取り込むという態度だ。この相反するクリエイティブを共振させることは果たして可能なのか！？

これら同時代性を総括する2つのコンセプトを探求すべく、僕は作品に対峙した！そして、その地平に浮かび上がった世界！それは、メディアでも、テクノロジーでもなく、生身の人間だった！耳を澄ますと聞こえてくるアーティストの息づかい.....気配として佇む作家の残り香.....透かし見ると浮かび上がる手垢、血痕.....そう、アーティストの眼差しや想念が創造の光となって、テクノロジーを超越し、立ち上がる！そこで僕は「The Medium as Somatic Impulse」というテーマを打ち立ててみた！身体的衝動としてのメディウム！新たな触媒も新奇な技術発明も、創造の主が利用する道具、そして器に過ぎない！ロックアートも洞窟壁画も、ナスカの地上絵もピラミッドも、神話を背負った太古のメディアアートだと捕らえることができるが、遥か以前からメディアもそしてテクノロジーも、イマジネーションを具現化するひとつのツールに過ぎないのである！想像力は創造力になりうる！つまり、身体的衝動をメディアに映し出す力こそが、アートにとって最も重要なアビリティなのではないか？ここにはステレオタイプな未来像など軽く打ち破った、オルタナティブ・フューチャー達が鼓動を刻んでいる筈だ！！

宇川 直宏 / UKAWA Naohiro

現在美術家 / 京都造形芸術大学教授 / DOMMUNE 主宰

1968年生まれ。映像作家、グラフィックデザイナー、ミュージック・ビデオディレクター、VJ、文筆家、京都造形大学教授、“現在美術家”など、多岐にわたる活動を行う全方位的アーティスト。2010年3月に個人で開局したライブストリーミング・チャンネル「DOMMUNE」は、開局と同時に記録的なビューア数となり、国内外で話題を呼ぶ。「DOMMUNE」は、平成22年度[第14回]文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品に選出。

**LIVE**

会場: Edward Cinema(2/20), Todi Mill Social(2/21)

## ■Chapter1 / The Medium as Somatic Impulse – Performance

テクノロジーの進化とともに発展を遂げるメディアアートの提議自体、本来、脱領域的であるが、第一章では、クリエイティヴの根源としての身体的衝動と、現代テクノロジーの蜜月をライブパフォーマンスとして展開する。

### 出演アーティスト

#### 内橋 和久: ギタリスト / ダクソフォン奏者 / コンポーザー / アレンジャー / プロデューサー

イノセントレコード主宰。インプロヴィゼーショントリオ / アルタードステイツ主宰。イノセントレコード主宰。インプロヴィゼーショントリオ / アルタードステイツ主宰。1983年頃から即興を中心とした音楽に取り組み始め、国内外の様々な音楽家と共演。映画やダンス、演劇などの音楽も手掛け、中でも「劇団維新派」の舞台音楽監督を30年にわたり務めている。音楽家同士の交流、切磋琢磨を促す[場]を積極的に作り出し、即興ワークショップを世界各地で行う。即興音楽フェスティバル・ビヨンド・イノセンスを1996年より開催。近年はこれらの活動と併行して UA、細野晴臣、くるり、七尾旅人、青葉市子、おおたか静流、salyuらと歌に取り組む。即興音楽家とポップミュージシャンの交流の必要性を説く。また、NPO ビヨンドイノセンスを立ち上げ、大阪でオルタナティヴ・スペース BRIDGE を運営したことで知られる。近年はアジアに目を向け、出会いを求めて各地を旅する。とりわけインドネシアのデュオ SENYAWA とは交流が深く、新バンド「MAHANYAWA」を結成。ドイツの音楽家ハンス・ライヒェルが発明したダクソフォンの継承者としても知られている。ベルリン在住。 <http://www.innocentrecord.com/>

#### galcid (Lena & Neon): 「アナログシンセ女子」ユニット

齋藤久師氏をプロデューサーとして迎え、2013年結成した「アナログシンセ女子」ユニット。「No PC/No Preset」を掲げ、予測不能、縦横無尽なサウンド & パフォーマンスを作り上げている。女子二人が無骨なアナログシンセを操り、攻撃的なサウンドを披露する事から、音だけでなく、視覚的なインパクトも好評。 <http://galcid.com/>

#### 齋藤 久師: サウンドデザイナー / クリエイター

1991年「GULT DEP」でビクターエンターテインメントよりメジャーデビュー。「Y セツ王」や松武秀樹率いる「Logic system」などに参加。世界のヒットソングをチップチューン化するユニット「8bit project」ヨーロッパツアーを行う。neuron records より自身のユニット『pulselize』を連続リリース。著書に「DTM テクニック99(2010、リットーミュージック)」

#### ドラびでお / 一楽儀光 (DORAnome. Computer)

2012年長年プロとして活動してきたドラムを引退。その後 tkrworks 社と長年開発を進めて来た映像と音楽をリアルタイムにリミックス出来る自作楽器「DORAnome」により活動を再開。既製の楽器ありきの音楽では無く楽器自体から自分自身の音楽専用で一から作り上げるというコンセプトにより圧倒的な個性と唯一無二な世界観を出している。 <http://doravideo.businesscatalvst.com/>

### コラボレーションライブ: しゃべる木製楽器・ダクソフォン / 内橋和久

モジュラーシンセサイザー VS レーザーギター / galcid + 齋藤久師 + ドラびでお

モジュラーシンセサイザーインプロビゼーション / galcid + 齋藤久師

ダクソフォン VS レーザーギター / 内橋和久 + ドラびでお



左) galcid + 齋藤久師  
中) ドラびでお  
右) 内橋和久

**作品展示** 会場: Sitara Studio 日時: 2月19日(金)～21日(日)11:00～22:00

## ■Chapter2/The Medium as Somatic Impulse – Installation

第二章は、著しく進化を遂げるプロトタイピング技術やセンシングなどのクリシェだけに回収されない、ポスト・ヒューマンインターフェイスとも言うべき、インスタレーションを展開する。身体と外界との相互作用、テクノロジーと身体、日常生活空間の再定義などをテーマとして展示する。

### ■『neural portraits』真鍋 大度 [2015/デジタルフォト]

人工知能を実現するアルゴリズムのひとつ「ディープラーニング」\*1 を用いたポートレイトのスタディ。元の画像から指定された画風(スタイル画像)を目指して人工知能が絵画を生成していく「A Neural Algorithm of Artistic Style」\*2 という画像認識のアルゴリズムを応用し、作家・真鍋大度のポートレイト写真を変換させる。

\*1 人間が日々の実体験から得られる情報の知識過程を数理モデル化し、コンピューター上で学習を実現しようとする技術「機械学習」の中でも、多層的な構造をもたせる研究。

\*2 Leon A. Gatys, Alexander S. Ecker, Matthias Bethge による論文。

### ■『ein Wald von Daxophone —ダクソフォンの森』内橋 和久

[2014/インスタレーション/第18回アート部門審査委員会推薦作品]

ダクソフォンという木製楽器だけで演奏、多重録音した楽曲を17チャンネルのマルチスピーカーで再生するサウンドインスタレーション。音楽に連動して映像と光が明滅する。さまざまな木片から奏でられた多彩な音色が響きわたり、折り重なることで、自然や生き物の気配が漂う森のような空間が出現する。

協力/設営: 横浜市民ギャラリーあざみ野

サウンドシステム開発: 伊藤隆之(YCAM インターラボ)

プロジェクターシャッター技術サポート: YCAM インターラボ

アニメーション: Mana Fujiy



Photo: Ken Kato

## ■Chapter3/The Medium as Somatic Impulse – Gadget

第三章では、CADや3Dプリンターを駆使したプロトタイピング技術による、今世紀的“ソーシャルもの作り主義”＝メイカーズムーブメント。「第三の産業革命」といわれるこの潮流を、本展のテーマである「The Medium as Somatic Impulse」の概念で解析した、真のオルタナティブ・フューチャーを紹介する。

### ■『handiii』近藤 玄大/山浦 博志/小西 哲哉

[2014/ガジェット/第18回エンターテインメント部門優秀賞]

3Dプリンターで出力したパーツと、スマートフォンを制御に利用した筋電義手。筋電義手とは、腕の皮膚上で計測される筋肉の微弱な電気信号を介して、直感的に操作できる義手のこと。従来の義手は非常に高価であったが、3Dプリンターとスマートフォンの活用で、材料費を3万円以内に抑えている。またデザイン面も、使う人が色やパーツを変更できるようになっている。指先にICチップやマイクを組み込むなど機能面の拡張を加えており、現在は実用化に向け、ユーザーとともに開発を進めている。



handiii  
Accessible myoelectric hand

©2014 exiii Inc.

**作品上映** 会場: Sitara Studio 日時: 2月19日(金)～21日(日)11:00～22:00

## ■ Chapter4 / The Medium as Somatic Impulse – Short film OVERSEAS

第18回文化庁メディア芸術祭アート部門・エンターテインメント部門の受賞作品等のうち、作品の根幹を成すコンセプトが、時間／場所／身体の三要素で構成されたショートフィルムを世界中から厳選。2014年のショートフィルムの動向を「身体的衝動としてのメディウム」のテーマで切り取る。

『Kintsugi』 APOTROPIA (Antonella MIGNONE / Cristiano PANEPUCCIA) [イタリア]

エンターテインメント部門優秀賞

『The Mute』 Hilla BEN ARI [イスラエル]

アート部門審査委員会推薦作品

『KAWURAS』 Hendrik LACKUS / Lars SICHAU / Andreas MEVES [ドイツ]

エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

『FAINT』 Natalie PLASKURA [ドイツ]

エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

『WE ARE OUTSIDE PLAYING IN THE GARDEN』 Friederike HOPPE [ドイツ]

エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

## ■ Chapter5 / The Medium as Somatic Impulse – Drawing Animations

アニメーションは、その語源が、ラテン語の「anima」=「靈魂」であるように、生命のない画像に命を与えて動かすことを意味するが、第五章は、表現の初期衝動としてのドローイング・アニメーションの最前衛を、エンターテインメント、アニメーション部門を横断しながら特集する。

『家族のはなし』 鉄拳 [日本] 第18回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

『安全運転のしおり』 AC部(安達 亨 / 板倉 俊介) [日本] 第18回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

『やますき、やまざき』 ししやまざき [日本] 第17回アニメーション部門審査委員会推薦作品

『Remember Me』 端地 美鈴 / 『Remember me』制作チーム(代表: 酒井 洋輔) [日本]

第18回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

### EYEMYTH Media Arts Festival

EYEMYTH(アイミス)は、アート、エンターテインメントと新しいメディア表現のフェスティバル。試験的なオーディオビジュアルメディアの過去、現在、未来を見つめる、この種のものとしてはインドで唯一のフェスティバルです。世界中の映像制作者、ミュージシャン、ニューメディア・アーティストたちの選りすぐりの作品が一堂に会すこのフェスティバルは、オーディオビジュアル・コンテンツを創造するアプローチと技術の多様性を示すものです。フィルム上映と英国のライト・サージョンス(the Light Surgeons)にスポットをあて大成功を収めた2013年に続き、2016年、EYEMYTHがムンバイに再び帰ってきます。期間中には数々のパフォーマンスやインスタレーション、フィルム上映が行われます。

<http://eyemyth.unboxfestival.com/>



## 関連イベント

### ■ ワークショップ

シンセ学院@ムンバイ 講師:galcid+齋藤久師

日時:2月19日(金) 15:00~17:00 会場:Dolby Laboratories

日本から持参したアナログシンセサイザーやモジュラーシンセサイザーを使い、その成り立ちから基本的な構造までの基礎を学びます。また、実際に参加者がシンセサイザーを触りながら音を出すことで、普段あまりなじみのないアナログ/モジュラーシンセサイザーを身近なものにします。

### ■ トークイベント

#### 日本とインドの新たなメディアの可能性を探る

出演:宇川 直宏(企画ディレクター)、Avinash Kumar(EYEMYTH Media Arts Festival 代表)、  
Dr. Padini Ray Murray(Srishti School of Art, Design and Technology)

日時:2月21日(日) 15:00~16:30 会場:Piramal Museum of Art

本企画テーマから選出した作家や作品、文化庁メディア芸術祭の作品傾向などを基に、人間の潜在能力とメディアについて考察。また、日印の文化的背景から、宇川氏、本フェスティバルディレクター、インドのデジタルアーティストでビデオゲームスタディーズの女性専門家を交え、現在の状況からこれからの生まれてくるメディアの可能性を、日本とインドの視点でディスカッションします。

### ■文化庁メディア芸術祭 受賞作品上映

日時:2月20日(土) 会場:Edward Cinema

20:00~ 上映プログラム「Beyond the Technology—テクノロジーを越えて」

17:30~、20:30~ 上映プログラム「Entertainment & Animation Selection 2015  
—エンターテインメント・アニメーション部門セレクション 2015」

### ■ライブパフォーマンス

日時:2月20日(土) 22:00~ 会場:Edward Cinema

#### しゃべる木製楽器・ダクソフォン\* / 内橋和久

ダクソフォンは、デザイナーや音楽家として活躍したドイツの奇オハンス・ライヒェルが創作した木製楽器。パーカッションのようなリズムを刻み、弦楽器のような音を奏で、また生き物の鳴き声のようなダクソフォンは、多彩な音のバリエーションを持っています。

\*木製の「サウンドボックス」にコンタクトマイクが内蔵され、様々なかたちの「タンク」と呼ばれる木片をとりつけます。ギターネックを変形させた「ダックス」を左手に、右手にコントラバスの弓などを持ち、弾いたり叩いたりして演奏します。

#### モジュラーシンセサイザー VS レーザーギター / galcid+齋藤久師+ドラびでお

analog synthesizer、modular synthesizer、LaserGuitar からなる Improvisation (即興)グループ。  
光と音とビートで隙間ないパフォーマンスを行います。

日時:2月21日(日) 21:00~ 会場:Todi Mill Social

#### モジュラーシンセサイザーインプロビゼーション / galcid+齋藤久師

アナログシンセ女子ユニット「galcid」と、孤高のシンセリスト「齋藤久師」からなるグループ。

analog synthesizer と modular synthesizer をメイン楽器とし、No Preset/No PC を提言に Improvisation(即興)で LIVE を行います。その場に居る人しか共有出来ない、「その時」、「その一瞬」のサウンドとリズムを即興ライブによって体験できます。

#### ダクソフォン VS レーザーギター / 内橋和久+ドラびでお

木製楽器「ダクソフォン」と「LaserGuitar」(自作の DORAnome3)との饗宴。

**参考**

## 文化庁メディア芸術祭について

文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度(1997年)の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰し、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。今年度[第19回]は、世界87の国と地域から4,417点の作品の応募があり、文化庁メディア芸術祭は国際的なフェスティバルへと成長を続けています。また、文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を国内外で広く紹介する多彩な事業を実施しています。海外・国内展開や創作活動支援等の関連事業を通じ、次代を見据えたフェスティバルを目指しています。

### ■文化庁海外メディア芸術祭等参加事業

本事業は、世界各地のメディア芸術関連施設やフェスティバル等にて文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に上映・展示・講演を行う文化庁メディア芸術祭の関連事業です。



平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭受賞作品展



海外メディア芸術祭等参加事業(第12回チリ・メディアアートビエンナーレ(2015))

### 平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭

作品募集	2015年7月7日(火)~9月9日(水)
受賞発表	2015年11月27日(金)
受賞作品展	2016年2月3日(水)~2月14日(日) ※2月9日(火)休館 会場: 国立新美術館(東京・六本木)他
ウェブサイト	<a href="http://festival.j-mediaarts.jp/">http://festival.j-mediaarts.jp/</a>
Facebook	<a href="http://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival">http://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival</a>
Twitter	@JMediaArtsFes



NHKインターナショナルは、文化庁が主催する文化庁メディア芸術祭の関連事業である「海外メディア芸術祭等参加事業」の企画運営を受託し、日本のメディア芸術の発展に努めています。